

蔡橋方言におけるアスペクト助詞“倒”について

王 振宇

アブストラクト

本論文は湘語蔡橋方言のアスペクト助詞“倒”を考察したものである。“倒”は結果補語、アスペクト助詞などの用法を持っている。前者は“捡到一块钱”（捡到一块钱）、“买到一台电视”（买到一台电视机）などのようなものであり、「動作対象（“钱”、“电视”）の獲得」を表す。一方、後者は“在家里吃倒饭”（在家里吃着饭）のような「動作の持続」を表す“倒”と、“在床上困倒”（在床上睡着）のような「状態の持続」を表す“倒”に分けられる。本論文は動詞の語彙的な意味や前置詞句（“在”＋場所名詞）の構文位置などに着目して“倒”の性質を考察する。

キーワード：漢語方言、湘語、アスペクト、動作の持続、結果状態の持続

1. はじめに

持続 (durative) とは動作の開始段階と完結段階を問題にせず、動作の持続段階を捉えるアスペクトの見方である。動作・作用が行われて、あるとき結果が残されるというように考えれば、いわゆる「持続」は先行した「動作の持続」と残存された「結果状態の持続」に下位分類される。北京語において、「動作の持続」と「結果状態の持続」はいずれも動詞にアスペクト助詞“着”がつくことによって表される。以下に例を挙げてみよう。

(1) (動作の持続)

他 一个人 在 街 上 走 着。
彼 一人 到 町 上 歩く ASP¹
彼は一人ぼっちで町を歩いている。

(2) (結果状態の持続)

门 开 着。
門 開く ASP
門が開いている。

蔡橋方言における持続のアスペクトを表す助詞として、“倒” [təŋ⁰] が挙げられる。次のようなものである。

(3) (動作の持続)

己摊人 吃 倒 酒 在 米里。
彼ら 飲む ASP お酒 に そこ
[彼らはそこでお酒を飲んでいる。] (他们在那儿喝着酒。)

(4) (結果状態の持続)

老李 倚 倒 在 米里。
李さん 立つ ASP に そこ
[李さんはそこに立っている。] (老李在那儿站着。)

本論文は蔡橋方言における持続のアスペクトを表す“倒”について、動詞の語彙の意味との関係に着目して考察する。本発表で使用した蔡橋方言のデータは2007年8月から9月にかけて、筆者が蔡橋郷で行った方言調査に基づいたものである。この調査の詳細と蔡橋方言については王振宇(2009a)を参照されたい。インフォーマントの基本情報は次のとおりである。性別:男。年齢:52歳。出身地:湖南省邵陽県蔡橋郷落馬村。長期外出歴:なし。職業:小学校教員。教育程度:

高校。話せる言語:蔡橋方言、標準語。

2. 蔡橋方言の“倒”について

2.1 蔡橋方言の動詞分類

“倒”を考察する前、蔡橋方言の動詞を語彙の意味から分類する。工藤(1996)が指摘しているように、アスペクト的意味は動詞の語彙的意味と相関している。

アスペクト研究において、動詞分類が重要な意味をもつのは、文法的アスペクト対立が抽象的(formal meaning)なものであるがゆえに、語彙的意味(material meaning)のタイプに応じて具体化されるからである。

(工藤 1996 : 69)

本論文は工藤(1996)の動詞分類基準に基づき、蔡橋方言の動詞分類についてはまず、時間的展開性があるか否かによって、動詞を「運動動詞」と「静態動詞」の2種類に分ける。次に、「動作」か「変化」かという観点と、「主体」か「客体」かという観点を組み合わせて「運動動詞」を「主体動作・変化動詞」、「主体変化動詞」、「主体動作動詞」の三つに分ける。さらに、それぞれに詳しい下位分類を行う。

(A) 運動動詞

(A1) 主体動作・客体変化動詞

(A1.1) 客体に所有関係の変化を引き起こす動詞

① [獲得]

买(買う)、借(借りる)、捉(捕まえる、握る)、担(持つ、取る)、捞(手に入れる)、捡(拾う)、抢(奪う)、得(得る)、贏(勝ったあと(ものを)得る)、偷(盗む)、赚(儲ける) …

② [喪失]

卖(売る)、借(貸す)、还(返す)、输(負ける)、穴(捨てる)、折(損失する)、送(贈る) …

(A1.2) 客体に位置変化をひき起こす動詞

① [付着]

放(置く)、绉(結びつける)、安(とりつける)、盖(ふたをする)、禁²((ひげを)のぼす)、点(つける)、穿(履く)、戴(かぶる) …

② [離脱]

取(とりはずす)、剃(削る)、□([□ye²⁴]捨てる)、熄(消す)、撕(割く)、解(解く)、脱(脱ぐ) …

(A1.2) 客体に様態の変化をひき起こす動詞

煮(煮る)、剪((はさみ)で切る)、切((ナイフなどで切る)、剁(たたき切る)、咬(噛む)、挖(掘る)、起(建てる)、整(調理する)、写(書く)、画(描く)、烧(焼く) …

(A2) 主体変化動詞

(A2.1) 主体変化=主体動作動詞

坐(腰掛ける)、倚(立つ)、困(横たわる)、跼(しゃがむ)、□([bei¹³]もたれる) …

(A2.2) 主体非意志の変化動詞

开(沸騰する)、干(乾く)、完(終る)、烂(破れる)、倒(倒れる)、停(止まる)、贏(勝つ)、输(敗れる)、死(死ぬ)、醉(酔う)、□([t□□¹³]落ちる) …

(A3) 主体動作動詞

(A3.1) 外的動作動詞

吃(食べる)、看(見る)、听(聞く)、踢(蹴る)、骑(馬乗りになる)、送(見送る)、讲(話す)、喊(叫ぶ)、骂(ののしる)、唱(歌う)、等(待つ)、行(歩く)、走(走る)、飞(飛ぶ)、抬(持ち上げる)、爬(這う)、□([xa⁴⁴]遊ぶ) …

(A3.2) 内的情態動詞

想(懐かしく思う)、挂(気に掛ける)、疑(思う)、气(怒る)、悟(思う、考える)、烦(悩む) …

(B) 静態動詞(性質・位置関係などを表す動詞)

(B1) 性質

有(ある)、是(だ)、姓(～を苗字とする)、在(居る、位置する)、抵(相当する) …

(B2) 位置関係

朝(～に向かって)、向(～に向かって)、粘(～に隣接する)、就(～に添えて(食べる))、隔(～で隔てられる) …

2.2 補語の“倒”

補語の“倒”は方向補語と結果補語に分けられる。“倒”は低い姿勢・位置を表す主体変化動詞、たとえば、“困”(横たわる)、“跼”(うずくまる)、“跪”(ひざまずく)、“坐”(座る)、“倒”(倒れる)などにつく場合には、これらの姿勢をもたらす、下向きの運動方向を表す。

(5) 困 倒!

横たわる COMP

[横たわりなさい。](躺下!)

(6) 跼 倒!

しゃがむ COMP

[しゃがみなさい。](蹲下!)

(7) 跪 倒!

ひざまずく COMP

[ひざまずきなさい。](跪下!)

(8) 坐 倒!

座る COMP

[座りなさい。](坐下!)

結果補語の“倒”はものの獲得を表し、(A1.1) ①と (A1.2) ①の動詞と結合する。次のようなものである。

(9) 我 刚刚 捡 倒 两块 钱。

私 先ほど 拾う COMP 二元 お金

[私は先ほど二元のお金を拾った。](我刚才捡到两块钱。)

(10) 我 买 倒 一本 蛮 有意思 个 书。

私 買う COMP 一册 とても 面白い の 本

[私は昨日面白い本を一冊買った。](我买到一本很有意思的书。)

結果補語の“倒”は北京語の“到”に相当する。“捡钱”は「お金を拾う」動作を意味するが、“倒”を用いた“捡倒钱”は“捡”(拾う)という動作の結果として、“钱”(お金)が「獲得される」という意味を表している。そして、“买倒书”も同様に、“买”(買う)という動作の結果として“书”(本)が「獲得される」という意味を表している。

“听”(聞く)、“看”(見る)などの感覚動詞にも結果補語の“倒”がつくことがある。この場合、音声、事物が耳、目に「獲得(=感知)される」ことを表す。たとえば、

(11) 我 听 倒 己 个 声音 哩。

私 聞く COMP 彼 の 声 MOD

[彼の声が聞こえた。](我听到他的声音了。)

(12) 我 看 倒 己。

私 見る COMP 彼

[私は彼を見かけた。](我看到他。)

“买倒”、“捡倒”の“倒”には結果補語としての働きしかないが、一方、“听倒”、“看倒”は動作持続のアスペクトを表し得る。たとえば、例(13)には多義性が生じる。「私は二階で彼を見かけた」という意味にも読めるし、「私は二階

から彼をじっと見つめていた」という意味にも読める。前者は“倒”を「動作の達成を表す結果補語」とする理解であり、後者は“倒”を「動作持続を表すアスペクト助詞」とする理解である。

- (13) 我 在 二楼 看 倒 己。
私 で 二階 見る COMP/ASP 彼

2.3 動作の進行を表す“倒”

動作の持続を表す“倒”は主体動作動詞としか結合できない。その場合、例(14)のような命令文を除けば、場所句を伴わなければならない。

- (14) 你 看 倒 书、 莫 到 哪 去。
あなた 読む ASP 本 NEG に どこ 行く
[あなたは本を読んでいて、どこにも行かないで。] (你看着书、哪儿都别去。)

- (15) 己 恰恰 讲 倒 话 在 米里。
彼 先ほど 話す ASP 話 に そこ
[彼は先ほどそこで話していた。] (他刚才在那儿说话。)

- (16) *³己 恰恰 讲 倒 话。
彼 先ほど 話す ASP 話

そして、場所句の位置については動詞の前にも、後にも置くことができる。

- (17) 己 看 倒 书 在 屋 里。 = 己在屋里看倒书。
彼 読む ASP 本 に 部屋 なか
[彼は部屋で本を読んでいる。] (他在房里看着书。)

- (18) 己摊人 吃 倒 酒 在 米里。 = 己摊人在米里吃倒酒。
かれら む ASP お酒 に あそこ
[彼らはあそこでお酒を飲んでいる。] (他们在那儿喝着酒。)

さらに、場所句が動詞の前に現れる場合、場所語を省略してもいい。

- (19) 己 在 看 倒 书。 = 己 在 屋 里 看 倒 书。
彼 に 読む ASP 本 彼 に 部屋 中 読む ASP 本
[彼は本を読んでいる] (他在看着书。)

- (20) 我 在 写 倒 字。 = 我 在 果里 写 倒 字。
私 に 書く ASP 字 私 に ここ 書く ASP 字
[私は字を書いている] (我在写着字。)

「内的情態動詞+“倒”」は「主体動作動詞+“倒”」と同様に、動作の持続を表す。ただし、場所句との共起が構文に要求されない。

- (21) 己 总 挂 倒 娘爷、 劳 嗯 安心。
彼 いつも 気にかける ASP 両親 少しも NEG 安心する

[彼は両親のことをずっと気にかけている。少しも安心することなく。] (他总是惦记着父母、一点儿也不安心。)

動作の持続を表す“倒”の否定構文は“没(有)V”であり、“没(有)”と共起することができない。たとえば、例(22)の否定文は“己刚没在米里讲话。”となり、“*己刚没讲倒话在米里。”や“*己刚没在米里讲倒话。”ではない。

動作の持続を表す“倒”の否定形式は“没(有)V”である。両者が共起することはできない。

- (22) 己 刚 讲 倒 话 在 米里。
彼 先ほど 話す ASP 話 に そこ
[彼は先ほどそこで話していた。] (他刚才在那儿说话。)

→ (否定文) 己 剛 没 在 米里 讲 话。
 彼 先ほど ない に あそこ 話す 話し

* 己刚没讲倒话在米里。

* 己刚没在米里讲倒话。

2.4 状態の持続を表す“倒”

“倒”は「主体動作・客体変化動詞」および「主体変化動詞」につく場合に、結果状態の持続を表す。ただし、この場合、場所を示す前置詞文の共起が要求されている。たとえば、

(23) 己 买 倒 蛮 多 书 在 屋 里。
 彼 買う ASP とても 多い 本 に 部屋 中

[彼はたくさんの本を買っていて、家に置いている。] (他买了很多书放家里。)

このような“倒”は動詞の語彙的意味に制限されている。すなわち、“倒”は (A1.1) ①と (A1.2) ①における「獲得、付着、留存」などの意味を含む動詞にしか付くことができず、(A1.1) ②と (A1.2) ②における「消失、喪失、離脱」を含意する動詞に付くことができない。たとえば、例(24)では、“买”(買う)は「獲得」を含意する動詞であるため、“倒”と共起できるが、一方、「譲渡=消失」を含意する“卖”(売る)は“倒”と共起できない。

(24) 己 买 倒 蛮 多 书 在 屋 里。
 彼 買う ASP とても 多い 本 に 家 中

[彼はたくさんの本を買っていて、家に置いている。] (他买了很多书放家里。)

(25) * 己 卖 倒 蛮 多 书 在 屋 里。
 彼 売る ASP とても 多い 本 に 家 中

さらに、“倒”は動作の達成後の結果状態が存続していること、すなわち「状態の持続」を表すこともできる。この場合、「“在”+場所名詞」が要求されているほか、動詞の語彙的な意味も関わっている。たとえば、

(26) 饭 煮 倒 在 鼎 里
 ご飯 炊く ASP に なべ なか

[ご飯をなべに炊いている。] (饭在锅里煮着。)

下に挙げる用例では、“留”(蓄える)、“绉”(締める)はいずれも「獲得、付着、留存」のような意味を持つ動詞であるため、“倒”と共起できる。一方、“刮”(剃る)、“解”(解く)は「喪失、離脱、消失」の意味を含むので“倒”と共起できない。

(27) 留 倒 蛮 深 个 胡子 在 脸 上。
 蓄える ASP とても もじゃもじゃ の ひげ に 顔 うえ

[もじゃもじゃしたひげを顔中にはやしている。] (脸上留着很深的胡子。)

(28) * 刮 倒 蛮 深 个 胡子 在 脸 上。
 剃る ASP とても もじゃもじゃ の ひげ に 顔 うえ

(29) 绉 倒 根 索索 在 身 上。
 締める ASP 本 繩 に 体 うえ

[1本の繩を体に締めている] (系着根繩子在身上。)

(30) * 解 倒 根 索索 在 身 上。
 解く ASP 本 繩 に 体 うえ

“倒”は次のような動作主体の姿勢の変化を表す動詞につき、結果状態の持続を表すこともできる。この場合においても場所名詞を必要とする。

(31) 床 上 困 倒 个 人 在 米里。
 ベッド 上 寝る ASP 個 人 に そこ

[一人がベッドに寝ている。] (床上睡着一个人。)

- (32) *床 上 困 倒 个 人。
 ベッド 上 寝る ASP 個 人

「主体動作・客体変化動詞+“倒”」は「状態の持続」だけを表すのに対して、「主体変化動詞+“倒”」は「動作持続」と「状態の持続」の両方の意味を表すことができる。どちらの意味になるかは場所句の構文位置によって決められる。

ここで、“脱”(脱ぐ)を例に挙げると、次のようになる。場所句が動詞の後ろに置かれる場合、「状態の持続」の意味を表す。たとえば、

- (33) 己 脱 倒 衣 衫 在 哪 里, 你 把 己 洗 一 下。
 彼 脱 脱 ぐ ASP 服 に そ こ あ な た に 彼 洗 う ち ょ つ と

[彼は服を脱いでそこに置いている。ちょっと彼に洗ってあげて。] (他脱了衣服在那儿, 你给他洗洗。)

一方、場所句が動詞の前に移ると、“倒”は「状態の持続」を表せず、「動作の持続」を表すようになる。たとえば、
 [動作の持続]

- (34) 己 在 哪 里 脱 倒 衣 衫。
 彼 に そ こ 脱 脱 ぐ ASP 服

[彼はそこで服を脱いでいるところだ。] (他正在那儿脱着衣服。)

例文のように、場所句(“在灶屋”(厨房に))が動詞(“煮”(炊く))の後ろに置かれる場合、“煮”(炊く)の動作の働きで、その受け手としての“飯”(ご飯)が「炊いている」状態にあるという意味が表される。一方、例(35)のように、場所句“在灶屋”(厨房で)が“煮”(炊く)の前に置かれる場合、仕手“我”(私)が“煮倒”(「炊いているところ」という動作の持続が表される。

- (35) (受け手の状態の持続)
 我 煮 倒 饭 在 灶 屋。
 私 炊 炊 ぐ ASP ご 飯 に 厨 房

[私はご飯を鍋に炊いている。] (我煮了饭在饭锅里。)

- (36) (仕手の動作の持続)
 我 在 灶 屋 煮 倒 饭。
 私 に 厨 房 炊 炊 ぐ ASP ご 飯

[私は厨房でご飯を炊いている。] (我在厨房煮着饭呢。)

次のような受け手の主語文においては、「受け手の結果状態の持続」のみを表すようになる。

- (37) 饭 在 鼎 里 煮 倒。
 ご 飯 に 釜 中 炊 炊 ぐ ASP

[ご飯は釜に炊いている。] (饭在饭锅里煮着。)

- (38) 饭 煮 倒 在 鼎 里。
 ご 飯 炊 炊 ぐ ASP に 釜 中

[ご飯は釜に炊いている。] (饭在饭锅里煮着。)

この場合、文から場所語(“鼎里”)を取ることができない。

- (39) *饭 在 煮 倒。
 ご 飯 に 炊 炊 ぐ ASP

- (40) *饭 煮 倒 在。
 ご 飯 炊 炊 ぐ ASP に

3. おわりに

“倒”と動詞種類（語彙的意味）との関係や構文的特徴をまとめると次表のとおりである。

表1 動詞種類と“倒”との関係

動詞の種類		倒
運動動詞	主体動作・客体変化動詞	①結果補語 ②動作の持続 (S 仕手+在+場所名詞+V 倒(0)) ③状態の持続 (S 仕手/受け手+V 倒(0)+在+場所名詞)
	主体変化動詞	状態の持続 (V 倒(0)+在+場所)
	主体動作動詞	①結果補語 ②動作の持続 (S 仕手+在+場所名詞+V 倒(0)、S 仕手+V 倒(0)+在+場所名詞)
	内的情態動詞	動作の持続 (V 倒)
静態動詞		×

ところで、北京語の“着”は場所を表す前置詞文と共起する場合、「前置詞+場所名詞+動詞+“着”」のように前置詞文が動詞句の前に置かれることが一般的である（例(41)(42)参照）。

- (41) a. 字典 在 桌子 上 摆 着。
辞書 に テーブル うえ 置く ASP
[辞書はテーブルに置いてある。]

b. *字典摆着在桌子上。

- (42) a. 他 在 床 上 睡 着。
彼 に ベッド うえ 寝る ASP
[彼はベッドで寝ている。]

b. *他睡着在床上。

一方、蔡橋方言のような「動詞+アスペクト助詞+場所を表す前置詞句」のような文型は湘語や贛語、吳語など多くの東南方言に存在する。以下の用例は羅昕如（2007）より再引用されたものである。

- (43) (湘語：湖南衡阳)

a. 摆 哒 在 那里
置く ASP に そこ
[そこに置かれている] 在那儿放着

b. 坐 哒 在 屋 里头
座る ASP に 部屋 中
[部屋に座っている] 在房间里坐着

- (44) (贛語：江西丰城)

a. 放 着 在 桌子 上
置く ASP に テーブル うえ
[テーブルの上に置かれている] 在桌子上放着

b. 写 着 在 簿基 上

書く ASP に ノート うえ

[ノートに書いている] 在本子上写着

(45) (呉語：浙江海盐)

a. 茶杯 摆 起 台子 浪

コップ 置く ASP テーブル に

[コップがテーブルに置かれている] 杯子在桌子上放着

b. 钟 挂 起 墙头 浪

時計 懸ける ASP 壁 に

[時計が壁に懸かっている] 钟在墙上挂着

蔡橋方言を含め、東南諸方言のこういった構文の特徴は、結果補語とアスペクト助詞の間における意味的な連続を反映している。蔡橋方言の“倒”を例に挙げれば、結果補語の“倒”はモノの獲得を表すが、獲得の時点では動作が必ず達成する。一方、アスペクト助詞の“倒”は動作達成後の結果状態の持続を表す。こうして、両者は時間の流れに沿った同一デキゴトの異なる段階に理解されることが出来る。「結果状態の持続」というアスペクト的意味は必ず、先行して達成した運動を前提条件とする。結果補語の“倒”の後ろに場所句が置かれることによって、先行する動作、行為の達成の段階が背景となり、場所句の表す場所における動作、行為による結果状態の持続が前面に出てくると考えられる。

注

1. 本稿で使用する記号について、ASP はアスペクト助詞、COMP は結果補語、MOD は語気 (モダリティ) 助詞を表す。
2. 本稿では本字不明の字について同音字を用いる。同音字もなければ「□」で表記したうえで音声記号とその意味を後の括弧にあげる。
3. 用例番号の後に付した「*」はそのような表現が存在しないことを示す。

参考文献

<中国語文献>

鮑厚星・崔振华・沈若云・伍云姬 (1998) 『长沙方言研究』。湖南教育出版社。

儲泽祥 (1998) 『邵阳方言研究』。湖南教育出版社。

彭泽润 (1998) 『衡山方言研究』。湖南教育出版社。

李蓝 (1998) 「贵州大方话的“到”和“起”」。『中国语文』第2期。

刘丹青 (1996) 「东南方言的体貌标记」。张双庆主编『中国东南部方言比较研究丛书第二辑 动词的体』。香港中文大学中国文化研究所

罗昕如 (2008) 「湖南方言中的“动词+动态助词+介宾短语”句型」。『方言』第4期。

伍云姬 (1996) 『湖南方言的动态助词』。湖南师范大学出版社。

<日本語文献>

木村英樹 (1981) 「「付着」の“着/zhe/”と「消失」の“了”/le/」。『中国語』7月号、大修館書店。

木村英樹 (1982) 「テンス・アスペクト 中国語」。『講座日本語学 11 外国語との対照 II』。明治書院。

工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト』。ひつじ書房。

クリスティーン・ラマール (2001) 「中国語における文法化 方言文法のすすめ」。山中桂一・石田英敬編『シリーズ言語態 1 言語態の問い』。東京大学出版会。

楊凱榮 (2001) 「中国語の“了”について」。『「た」の言語学』。つくば言語文化フォーラム。

C. E. ヤーホントフ (1957) 『中国語動詞の研究』。橋本萬太郎訳。白帝社。

王振宇 (2009) 「蔡橋方言における母音の変遷について」。『地域政策科学研究』6号。鹿児島大学人文社会科学研究所。